

# 国際協力の現場を語る

JICA (ジャイカ: 国際協力機構) は、開発途上国の発展を支援するため、実務の経験と知識を持ったシニア (40歳~69歳) を途上国に「シニア海外ボランティア」として派遣しています。この人達はシニアならではの、海外旅行などでの体験とは違ったいろいろな体験をしてくれています。そんな話題も含めて体験を語って頂きます。

日 時: 毎月第3水曜日 15時30分~17時  
 会 場: JICA 横浜 会議室またはセミナールームなど  
 会 費: 無料 (どなたでも自由に参加出来ます)  
 主 催: NPO「シニアボランティア経験を活かす会」  
 後 援: JICA 横浜

(やむを得ず日時・会場が変更される場合があります。事前にシニアボランティア経験を活かす会ホームページまたは下記問い合わせ先に確認して下さい)

問合せ先: 横浜市中区新港2-3-1 JICA 横浜3階 国際協力連絡室内  
 シニアボランティア経験を活かす会 神奈川分科会  
 Fax:045-663-3263 担当: 白井道雄 (045-891-5490)  
 URL <http://jicasvob.com/> E-mail [info@jicasvob.com](mailto:info@jicasvob.com)



赴任国 (講師名)	「タイトル」 講演概要	
第91回 3月20日 (水) アルゼンチン (田中館忠夫)		<p>「アルゼンチンよ、泣かないで (ノ ヨレス アルヘンチーナ!)」                      第一次世界大戦後、アルゼンチンは世界の五指に入る経済大国でした。あれから100年、現在、からくもG20の下の方で頑張っていますが、その国力低迷は否めません。2002年の政治、経済の大混乱を経験し、それまでの誇り高いアルゼンチン人の姿は何処へ消えたのか。私の滞在中に耳にしたアルゼンチン人の嘆きの声とは?</p>
第92回 4月17日 (水) モロッコ (高杉敏男)		<p>「応用科学大学における国際協力及びマラケシュの歴史と人々」                      マラケシュ応用科学大学院大学における国際協力の概要、学生、教職員達との交流、人々の生活、宗教感を述べる。滞在中に調査したマラケシュの歴史、王朝の盛衰から現在のモロッコの人々の価値観や思考過程を分かり易く説明する。また、マラケシュにおける歴史的建造物を述べながらモロッコ及びマラケシュの魅力を述べる。</p>
第93回 5月15日 (水) 中国 (垣内美恵子)		<p>「世界第2位の経済大国でボランティアをするということ」                      ODAの巨額な投入が問題になっている経済大国中国。本来、開発途上国への援助であるはずでは?という質問を多く受けます。受け入れ側の中国人の意識、中国の受け入れ態勢、その中で悩みながらも変わっていったボランティアの意識等についてご報告いたします。</p>
第94回 6月19日 (水) ミクロネシア (古賀伸二)		<p>「ミクロネシアのエネルギー事情」                      ミクロネシアは独立性の強い4つの州からなる連邦国家です。その連邦政府に配属され、国家エネルギー政策の策定や、日本の太陽光発電援助プロジェクトの推進に携わりました。ミクロネシアのエネルギー事情、プロジェクトの苦労話、そして美しい自然の中でのプライベートライフなどを紹介します。</p>
第95回 7月17日 (水) シリア (鈴木秀秋)		<p>「私の経験したシリアでの海外ボランティア活動」                      シリアは砂漠の多い後進国でもあり、資源も乏しく産業も大きく遅れている。私はダマスカス工業会議所に所属し、周辺の各工場へ工場管理の手法 (特に日本式の管理法) を指導、実践させることであった。2年間週3,4日各工場を巡回し、生産計画の立て方から品質管理まで改善の実施方法などを各工場の実態を加味しながら指導した。</p>